

第7章 長宮遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅 100 m ほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500 m 南側には福岡江川が流れ、標高 9 ～ 10 m 前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北 300 m、東西 500 m 以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が隣接する。1977 年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる。

遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより 2014 年 12 月現在 49 ケ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に關係のある溝跡などである。

長宮遺跡第 34 地点の試掘調査および本調査については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 12 集『市内遺跡群 11』2014.3 で報告済みのため、本書では割愛した。

II 長宮遺跡第 33 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2011 年 7 月 28 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は 2011 年 5 月 19 日から 31 日まで行った。



第 32 図 長宮遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第 33 図 長宮遺跡遺構分布図 (1/2,500)

IV 長宮遺跡第37地点

(1) 調査の概要

調査は2ヶ所の個人住宅建設に伴うもので、隣接地の異なる原因者より2011年10月28日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

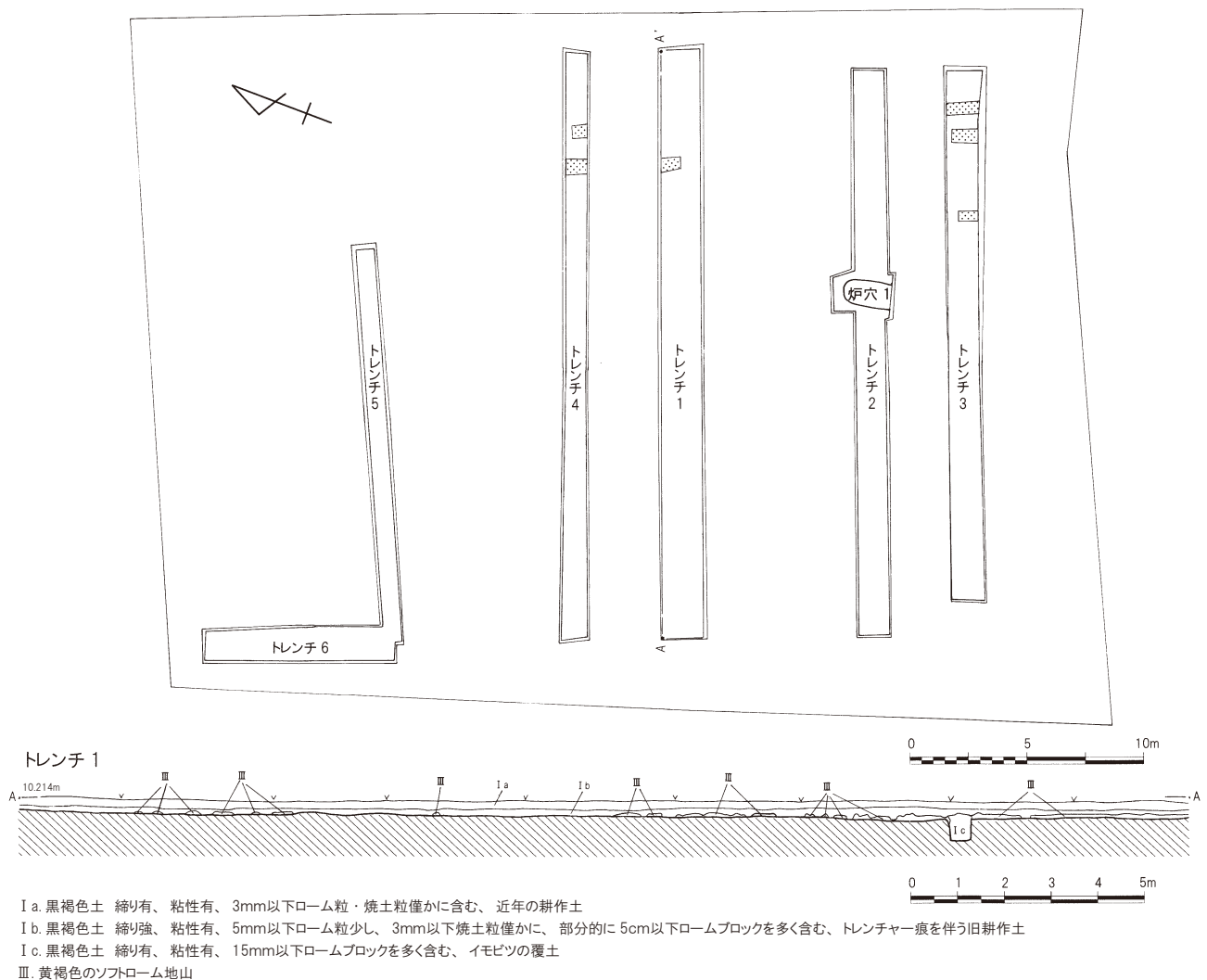
試掘調査は2011年11月8日、幅約1mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、遺構と遺物は確認されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。遺跡確認面までの深さは約80cmで、旧石器時代の確認調査は行っていない。

V 長宮遺跡第38地点

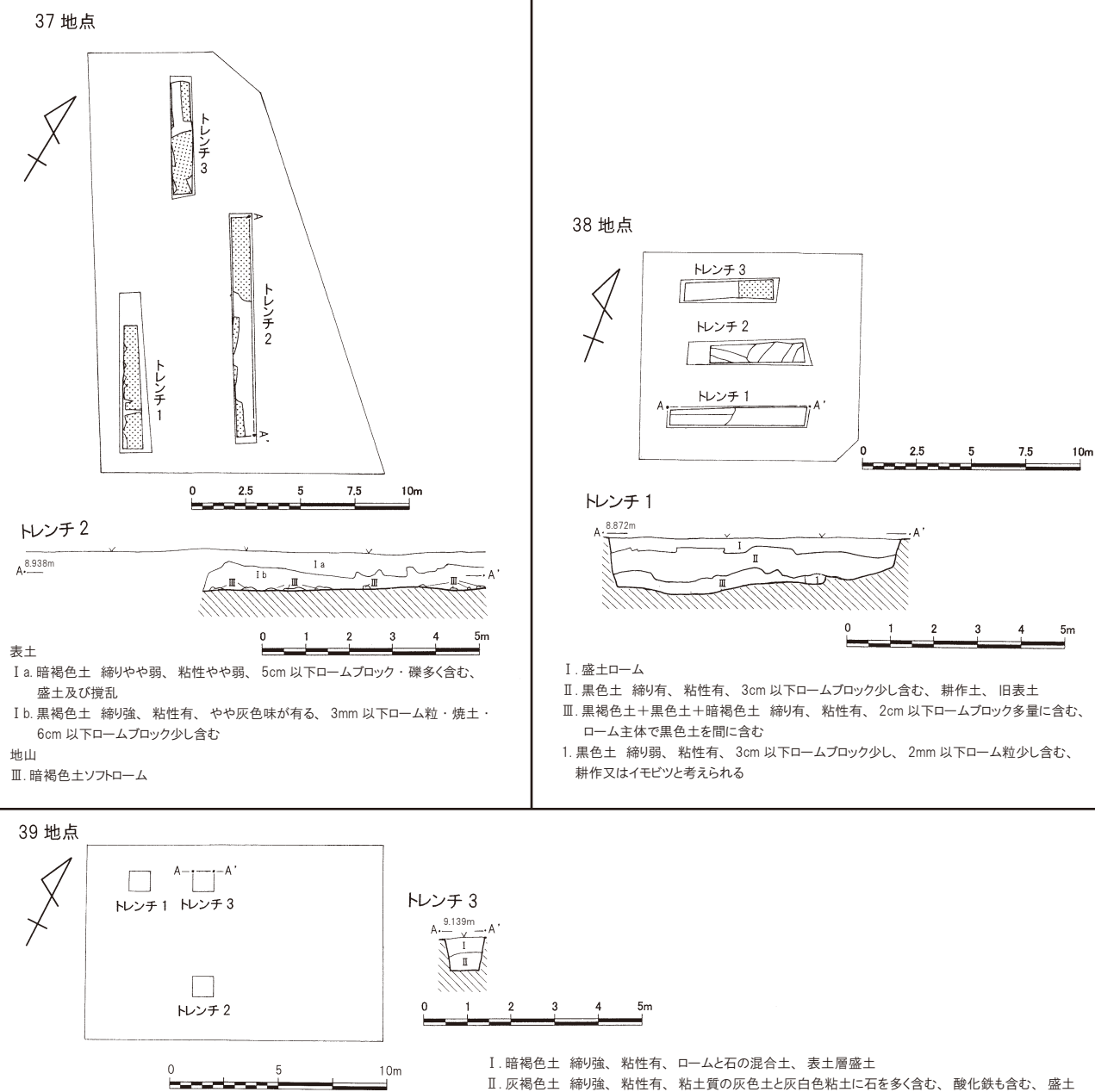
(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2011年11月7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年11月24・25日、幅約1mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、遺構と遺物は確認されなかった。溝状の掘り込みを確認したが、自然地形と判断した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。遺跡確認面までの深さは約70cmで、旧石器時代の確認調査は行っていない。



第37図 長宮遺跡第35地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)



第 39 図 長宮遺跡第 37～39 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)



長宮遺跡第 35 地点調査風景



長宮遺跡第 35 地点炉穴



長宮遺跡第 37 地点調査風景



長宮遺跡第 37 地点トレンチ



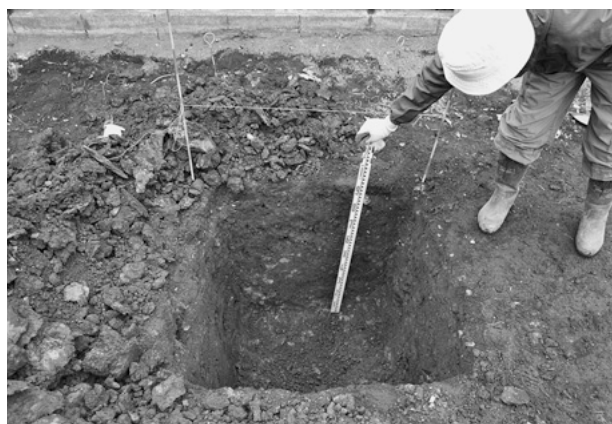
長宮遺跡第 38 地点調査風景



長宮遺跡第 38 地点トレンチ 2



長宮遺跡第 39 地点近景



長宮遺跡第 39 地点調査風景